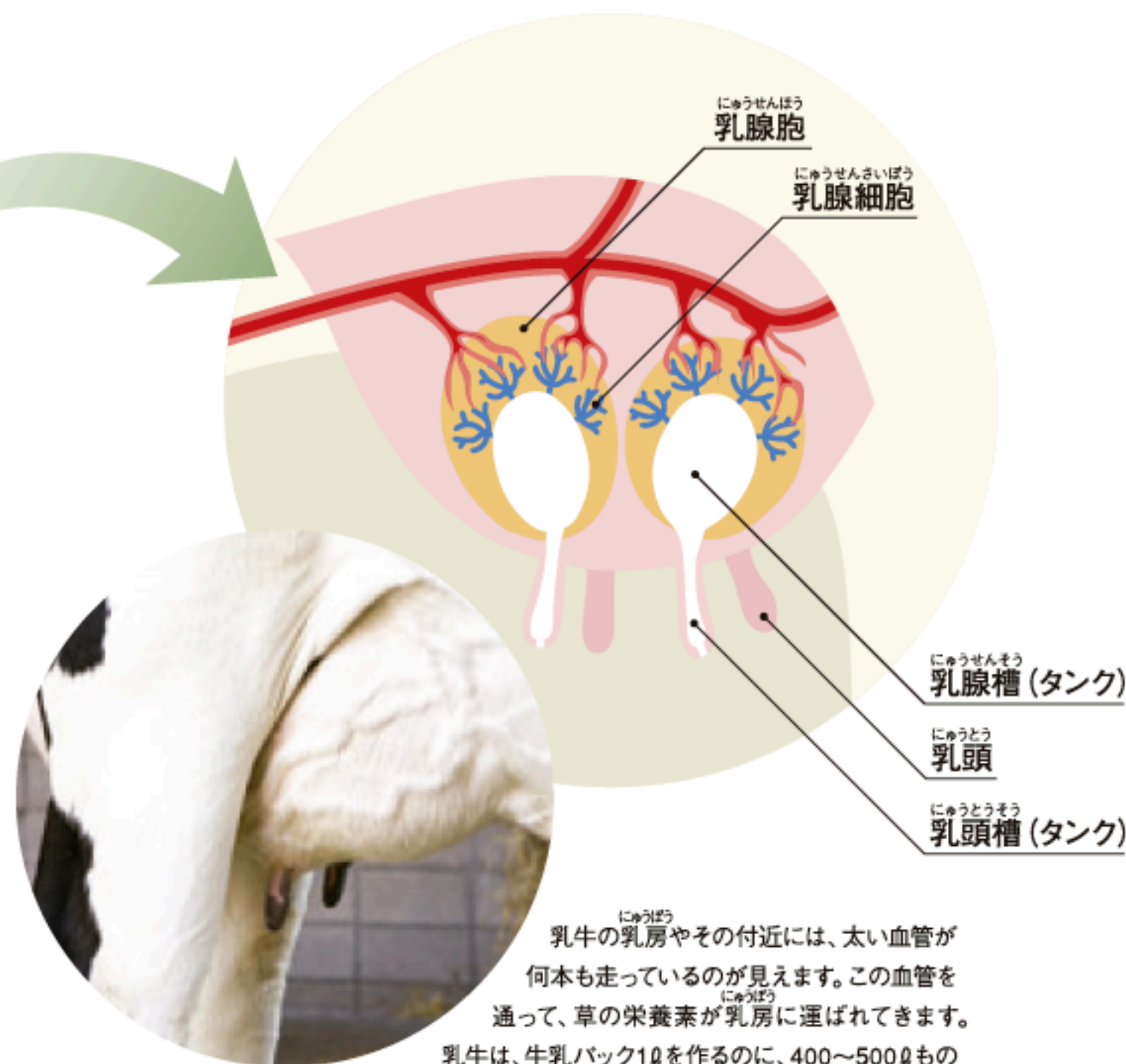
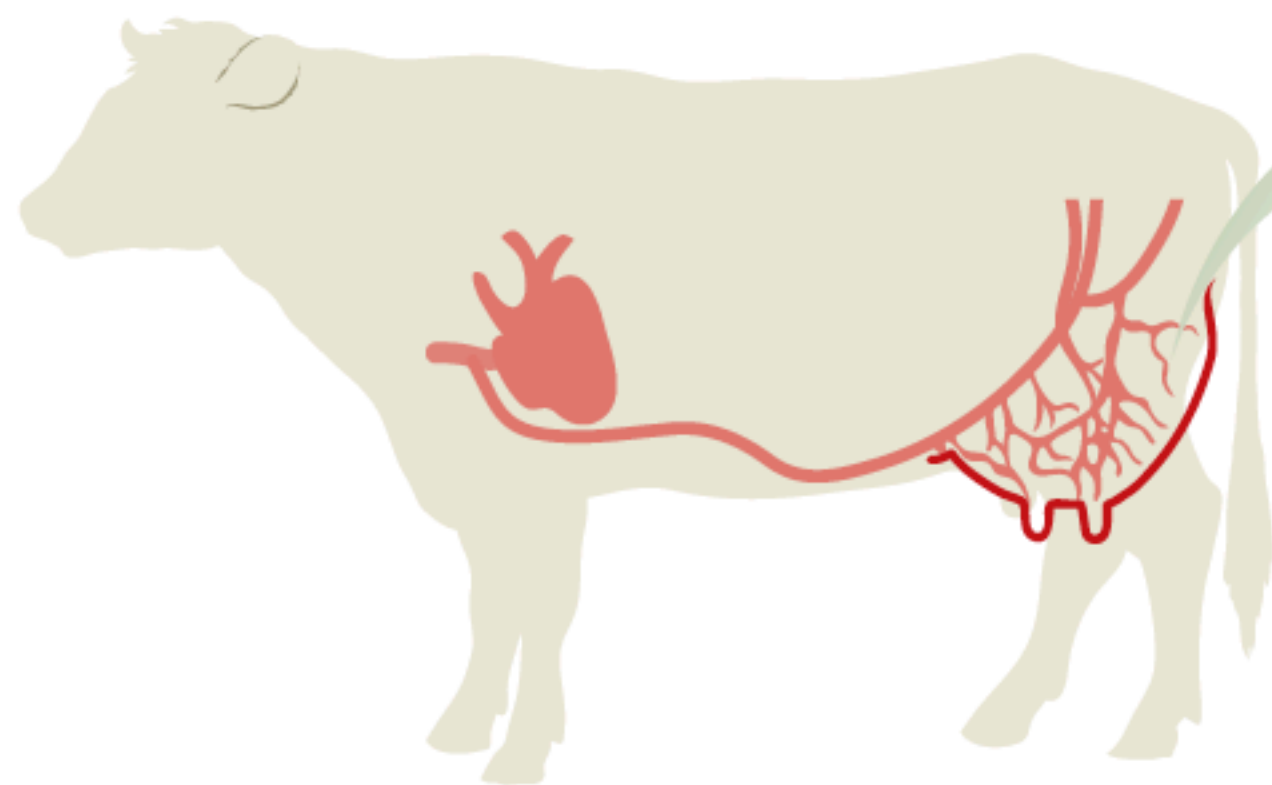


ミルクが出る仕組み [血液循環]

血液は、心臓から送り出され、血管を通して全身に運ばれますが、ミルクの成分のもとになる草の栄養素も、血液によってミルクを作る乳房(タンク)に運ばれ、ミルクになります。乳牛が食べた緑の草が、血液の循環により乳房に運ばれ、真っ白なミルクに変わる不思議。ミルクは、母牛が子牛を育てるためにつくられる飲み物なのです。

理科 Science



子牛のためのミルクを人間がいただく

赤ちゃんを産んではじめてミルクが出るようになるのは、乳牛も人間も同じです。生まれたばかりの赤ちゃんは、ミルク以外の食べものを食べるできません。したがって、乳牛のミルクの中には、子牛がすくすく育つように、いろんな栄養素がバランスよく含まれています。本来乳牛も子牛のためにミルクを出しますが、それを人間は母牛から分けてもらい、貴重な食べものとして利用してきました。数多くの哺乳類の中でも、ほかの動物のミルクをもらっているのは、人間だけなのです。



乳牛の乳房やその付近には、太い血管が何本も走っているのが見えます。この血管を通して、草の栄養素が乳房に運ばれてきます。乳牛は、牛乳バック10を作るのに、400~500ℓもの血液循環が必要です。乳牛の1日のミルクの量は、平均して20~30ℓなので、乳牛は毎日、1万ℓもの血液を循環させてミルクを出していることになります。